

平成27年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成27年2月13日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社 ユビキタス

コード番号 3858 URL <http://www.ubiquitous.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 佐野 勝大

問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部長

(氏名) 森 正章

TEL 03-5908-3451

四半期報告書提出予定日 平成27年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成27年3月期第3四半期の業績(平成26年4月1日～平成26年12月31日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
27年3月期第3四半期	463	△16.2	△287	—	△289	—	△289	—
26年3月期第3四半期	552	△14.5	△370	—	△368	—	△477	—

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
27年3月期第3四半期	△32.35	—
26年3月期第3四半期	△53.85	—

(注)平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式数1株を100株に分割し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
27年3月期第3四半期	1,560	1,461	91.3
26年3月期	1,815	1,705	92.5

(参考)自己資本 27年3月期第3四半期 1,425百万円 26年3月期 1,679百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
26年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
27年3月期	—	0.00	—	—	—
27年3月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成27年3月期の業績予想(平成26年4月1日～平成27年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	800	4.6	△350	—	△350	—	△353	—	△39.47

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	27年3月期3Q	8,982,100 株	26年3月期	8,942,900 株
② 期末自己株式数	27年3月期3Q	— 株	26年3月期	— 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	27年3月期3Q	8,957,665 株	26年3月期3Q	8,864,173 株

(注)平成25年10月1日を効力発生日として、普通株式数1株を100株に分割し、1単元を100株とする単元株制度を採用しております。1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して株式数を算定しております。

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外です。なお、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想について

本資料に記載されている業績見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、[添付資料]P3「1.(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	3
3. 四半期財務諸表	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	5
第3四半期累計期間	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)	6
(セグメント情報等)	6
(1株当たり情報)	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期累計期間における売上高合計は463,491千円となり、通期業績予想に対して、57.9%の達成率となり、当初の見込みより若干好調に推移しております。

形態別の内訳では、ソフトウェア使用許諾売上高326,316千円、サポート売上高31,585千円、ソフトウェア受託開発売上高100,010千円、製品売上高3,298千円、及びその他の売上高2,281千円となりました。

セグメント及び分野別の売上内訳及び事業状況は、以下のとおりです。

セグメント	分野	当第3四半期累計期間		前第3四半期累計期間		増減率 (%)
		売上高 (千円)	売上割合 (%)	売上高 (千円)	売上割合 (%)	
組込みソフトウェア事業	ネットワーク関連	197,746	42.7	243,507	44.0	△18.8
	データベース関連	109,560	23.6	84,628	15.3	29.5
	高速起動関連	120,190	25.9	77,159	14.0	55.8
	小計	427,496	92.2	405,295	73.3	5.5
サービス事業	サービスプラットフォーム関連	35,994	7.8	147,558	26.7	△75.6
	合計	463,491	100.0	552,853	100.0	△16.2

■組込みソフトウェア事業

組込みソフトウェア事業の売上高は、前年同四半期比5.5%増となりました。その主な要因は、当第3四半期累計期間において、高速起動関連の既存の大口顧客からロイヤルティ収益を獲得したことによるものです。

①ネットワーク関連

HEMS(Home Energy Management System:電力の見える化や制御を含む宅内の電力管理システム)、無線通信機器向けソフトウェア関連の案件等を中心に、「Ubiquitous ECHONET Lite」「Ubiquitous Wi-SMART(ワイスマー)

②データベース関連

産業機器、OA機器などの既存顧客からのサポート及びロイヤルティ収益を中心に計上しております。

③高速起動関連

当第3四半期累計期間において、既存の大口顧客より、販売好調を背景に包括契約の締結及びロイヤルティの追加販売による収益を獲得、その他の車載機顧客からのロイヤルティ収益も安定して推移しました。また複数の顧客より、製品搭載を前提とした新規案件を獲得しました。引き続き、カーナビゲーションシステム、ディスプレイオーディオ等車載向けの端末を中心として、複数社との間で大・中規模案件の研究開発・商品化に向けた実装を継続しております。

顧客製品への採用状況としては、富士通テン株式会社の「ECLIPSE(イクリプス)」カーナビゲーションシステム「AVN」2014年秋モデルであるSZシリーズ3機種及びZシリーズ3機種、並びに株式会社JVCケンウッドのAVナビゲーションシステム「彩速ナビ」3機種に採用され発売を開始しました。

また、車載情報機器に採用が見込まれる最新SoC(System-on-a-chip:1つの半導体チップ上に必要とされる一連の機能(システム)を集積する集積回路の設計手法)への対応強化として、平成26年11月12日には、ルネサス エレクトロニクス株式会社の第2世代R-Carシリーズ R-Car H2/M2/E2 最新版Linux kernel 3.10.31-LTSI(Yocto)に対応したことを、また、平成26年11月14日には、Android対応を強化するものとして、Android Pack 2.0(Androidスタティックモード・プラス)をルネサス エレクトロニクス株式会社の第2世代R-Carシリーズ R-Car M2に対応したことを発表いたしました。

さらに、平成26年9月17日に発表いたしましたミラクル・リナックス株式会社との業務提携に基づく活動の成果の1つとして、Tizen IVI 3.0ベースで開発した組込みシステム向けLinux OS - Embedded MIRACLEと「Ubiquitous QuickBoot」を統合した組込みLinux統合ソリューションのプロトタイプを開発したことを平成27年1月14日に発表いたしました。引き続き、車載品質の組込みLinuxとミドルウェアを組み合わせたベストソリューションの共同開発を両社で進めてまいります。

■サービス事業

HEMSクラウドサービス「Navi-Ene」に関する受託開発案件、及びHEMS機器「Navi-Ene」の販売等により、当第3四半期累計期間において一定の収益を計上いたしました。

なお、当第3四半期累計期間及び直近においては、以下の通り、展示会での製品紹介・デモンストレーション(以下、デモ等)を実施いたしました。

平成26年10月7日から幕張メッセにて開催された「CEATEC Japan 2014」では、ECHONET コンソーシアム ブース、株式会社村田製作所ブースにおいて、「Ubiquitous ECHONET Lite」、「Ubiquitous Wi-SMART」及び「Ubiquitous Miracast™ Solution」のデモ等を行いました。

平成26年11月19日からパシフィコ横浜にて開催された「Embedded Technology 2014/組込み総合技術展」では、「Ubiquitous ECHONET Lite」、「Ubiquitous Wi-SMART」、「Ubiquitous Network Framework」、「Ubiquitous QuickBoot」、「dalchymia(ダルキュミア)」を、ARMパビリオンブース、HD-PLCアライアンス ブースにおいて、デモ等を行いました。

平成27年1月14日から東京ビッグサイトで開催された国際カーエレクトロニクス技術展の自社ブースにおいては、「Ubiquitous QuickBoot」、弊社のクラウドサービスとセキュリティ技術を応用したドライバーズ認証ソリューションのデモ等を行いました。

これらの展示会への出展等を通じて潜在顧客候補を獲得し積極的な営業活動を継続しております。

営業費用面では、役員及び従業員等の人件費として381,593千円(前年同四半期比8.6%減)及び、経費として504,401千円(同30.5%減)を計上しました。なお、これらの人件費・経費のうち研究開発費は99,020千円(同33.6%減)です。

以上の結果、営業損失287,193千円(前年同四半期営業損失370,340千円)、経常損失289,031千円(同経常損失368,377千円)、四半期純損失289,861千円(同四半期純損失477,359千円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期会計期間末における総資産は、前事業年度末より254,570千円減少して1,560,726千円となりました。流動資産は、有価証券及び前払費用の増加等により、前事業年度末より81,185千円増加して1,302,332千円となりました。固定資産は、投資有価証券及び差入保証金が増加したものの、長期預金の減少により335,755千円減少して258,393千円となりました。

一方、総負債は、前事業年度末より10,961千円減少して98,986千円となりました。流動負債は、買掛金が減少したものの、未払消費税等及び前受金等の増加により、前事業年度末より13,113千円増加して87,762千円となり、固定負債は11,224千円となりました。

資本金及び資本準備金は、新株予約権の行使により前事業年度末からそれぞれ11,015千円増加して資本金620,854千円、資本準備金590,854千円となり、利益剰余金は、四半期純損失289,861千円の計上により193,128千円となりました。以上により、純資産は前事業年度末より243,608千円減少して1,461,739千円となり、自己資本比率は、前事業年度末の92.5%から91.3%となりました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

現時点において平成26年5月14日発表の通期業績予想を見直すべき要素はなく、同予想は据え置くこととします。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位:千円)

	前事業年度 (平成26年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成26年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	837,986	580,540
売掛金	138,906	147,494
有価証券	200,000	499,829
商品及び製品	9,836	8,135
仕掛品	6,270	22,644
前払費用	15,255	19,047
その他	12,891	24,640
流動資産合計	1,221,147	1,302,332
固定資産		
無形固定資産		
ソフトウェア	167,547	72,565
ソフトウェア仮勘定	—	2,733
無形固定資産合計	167,547	75,299
投資その他の資産		
投資有価証券	79,570	101,011
長期預金	300,000	—
差入保証金	47,031	82,082
投資その他の資産合計	426,602	183,094
固定資産合計	594,149	258,393
資産合計	1,815,296	1,560,726
負債の部		
流動負債		
買掛金	21,845	5,136
未払金	29,308	29,606
未払費用	6,401	5,407
未払法人税等	2,402	2,323
未払消費税等	—	9,445
前受金	10,417	13,208
預り金	4,274	472
資産除去債務	—	22,161
流動負債合計	74,649	87,762
固定負債		
繰延税金負債	10,340	11,224
資産除去債務	24,958	—
固定負債合計	35,298	11,224
負債合計	109,947	98,986
純資産の部		
株主資本		
資本金	609,839	620,854
資本剰余金	579,839	590,854
利益剰余金	482,989	193,128
株主資本合計	1,672,667	1,404,837
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	6,469	20,268
評価・換算差額等合計	6,469	20,268
新株予約権	26,211	36,632
純資産合計	1,705,348	1,461,739
負債純資産合計	1,815,296	1,560,726

(2) 四半期損益計算書
(第3四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
売上高		
ソフトウェア使用許諾売上高	275,125	326,316
サポート売上高	35,798	31,585
ソフトウェア受託開発売上高	150,476	100,010
製品売上高	85,957	3,298
その他の売上高	5,496	2,281
売上高合計	552,853	463,491
売上原価	402,620	269,895
売上総利益	150,232	193,595
販売費及び一般管理費		
役員報酬	49,343	41,381
給料及び手当	149,962	162,815
法定福利費	18,479	20,450
広告宣伝費	11,290	9,988
減価償却費	4,211	—
不動産賃借料	17,287	27,779
支払手数料	71,185	77,100
消耗品費	1,083	2,531
研究開発費	149,167	99,020
その他	48,562	39,720
販売費及び一般管理費合計	520,573	480,789
営業損失(△)	△370,340	△287,193
営業外収益		
受取利息	483	380
有価証券利息	797	525
受取配当金	366	915
為替差益	415	—
雑収入	0	1,220
営業外収益合計	2,062	3,040
営業外費用		
為替差損	—	0
支払手数料	98	—
新株予約権発行費	—	4,878
営業外費用合計	98	4,878
経常損失(△)	△368,377	△289,031
特別利益		
新株予約権戻入益	—	209
特別利益合計	—	209
特別損失		
減損損失	102,609	5,774
投資有価証券評価損	5,513	—
特別損失合計	108,122	5,774
税引前四半期純損失(△)	△476,500	△294,596
法人税、住民税及び事業税	1,717	2,023
法人税等調整額	△858	△6,758
法人税等合計	859	△4,734
四半期純損失(△)	△477,359	△289,861

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む)は、次のとおりです。

	前第3四半期累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年12月31日)
減価償却費	131,139千円	107,674千円

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期累計期間(自 平成25年4月1日 至 平成25年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	組込みソフトウェア事業	サービス事業	
売上高			
外部顧客への売上高	405,295	147,558	552,853
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—
計	405,295	147,558	552,853
セグメント損失(△)	△196,217	△174,123	△370,340

(注)セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期累計期間において固定資産の減損損失を102,609千円計上しております。セグメントごとの減損損失の計上額は、「組込みソフトウェア事業」が57,670千円、「サービス事業」が44,938千円です。

II 当第3四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	組込みソフトウェア事業	サービス事業	
売上高			
外部顧客への売上高	427,496	35,994	463,491
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	427,496	35,994	463,491
セグメント損失(△)	△128,161	△159,031	△287,193

(注)セグメント損失は、四半期損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

当第3四半期累計期間において固定資産の減損損失を5,774千円計上しております。セグメントごとの減損損失の計上額は、「組込みソフトウェア事業」が5,389千円、「サービス事業」が385千円です。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりです。

	前第3四半期累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額(△)	△53円85銭	△32円35銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失金額(△)(千円)	△477,359	△289,861
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失金額(△)(千円)	△477,359	△289,861
普通株式の期中平均株式数(株)	8,864,173	8,957,665
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	該当事項はありません。	平成26年12月8日の取締役会決議に基づく第三者割当による行使価額修正条項付第11回新株予約権(目的となる株式の数1,500,000株)

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失金額であるため記載しておりません。

2. 当社は、平成25年6月21日開催の当社取締役会の決議に基づき、平成25年10月1日付で株式1株につき100株の株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり四半期純損失金額を算定しております。